



## E コマンド

---

この章では、E で始まる Cisco NX-OS イーサネット コマンドおよび仮想イーサネット コマンドについて説明します。

# encapsulation dot1Q

指定されたサブインターフェイス上でトラフィックの IEEE 802.1Q カプセル化をイネーブルにするには、**encapsulation dot1q** コマンドを使用します。カプセル化をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**encapsulation dot1Q** *vlan-id*

**no encapsulation dot1Q** *vlan-id*

## 構文の説明

<i>vlan-id</i>	インターフェイスがアクセスモードのときに設定する VLAN。有効な値は 1 ~ 4093 です。内部スイッチ用に予約されている VLAN は除きます。
----------------	---

## コマンド デフォルト

カプセル化なし

## コマンド モード

サブインターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

IEEE 802.1Q カプセル化は、イーサネット インターフェイスおよび EtherChannel インターフェイスで設定できます。IEEE 802.1Q は、複数のスイッチとルータを相互接続し、VLAN トポロジを定義するための標準プロトコルです。

VLAN ID をサブインターフェイスに適用するには、**encapsulation dot1q** コマンドをサブインターフェイス範囲コンフィギュレーション モードで使用します。



### (注)

このコマンドは、ループバック インターフェイスには適用されません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、VLAN 30 のサブインターフェイスでの dot1Q カプセル化をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5.1
switch(config-subif)# encapsulation dot1q 30
switch(config-subif)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show vlan dot1Q</b>	VLAN の dot1Q カプセル化情報を表示します。

# errdisable detect cause

アプリケーションで errdisable 検出をイネーブルにするには、**errdisable detect cause** コマンドを使用します。errdisable 検出をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**errdisable detect cause {all | link-flap | loopback}**

**no errdisable detect cause {all | link-flap | loopback}**

## 構文の説明

<b>all</b>	すべての状況でエラー検出をイネーブルにします。
<b>link-flap</b>	リンクステートフラッピングの errdisable 検出をイネーブルにします。
<b>loopback</b>	ループバックの errdisable 検出をイネーブルにします。

## コマンドデフォルト

イネーブル

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

errdisable 検出がイネーブルになっており、原因がインターフェイスで検出された場合、インターフェイスは errdisable ステートになります。これは、リンクダウン ステートに類似した動作ステートです。

## 例

次に、リンクステートフラッピングの errdisable 検出をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# errdisable detect cause link-flap
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>errdisable recovery</b>	errdisable ステートからの回復を設定します。
<b>show interface status</b> <b>err-disabled</b>	インターフェイスの errdisable ステートを表示します。

# errdisable recovery cause

インターフェイスを **errdisable** ステートから解除し、アップ状態への移行をリトライするようにアプリケーションを設定するには、**errdisable recovery cause** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
errdisable recovery cause {all | bpduguard | failed-port-state | link-flap-recovery |
pause-rate-limit | udld}
```

```
no errdisable recovery cause {all | bpduguard | failed-port-state | link-flap-recovery |
pause-rate-limit | udld}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	すべての原因からタイマーが回復できるようにします。
<b>bpduguard</b>	ブリッジプロトコルデータユニット (BPDU) のガード <b>errdisable</b> ステートからタイマーが回復できるようにします。
<b>failed-port-state</b>	スパンニング ツリー プロトコル (STP) の <b>set port</b> ステート障害からタイマーが回復できるようにします。
<b>link-flap</b>	リンクステート フラッピングからタイマーが回復できるようにします。
<b>pause-rate-limit</b>	ポーズレートリミット <b>errdisable</b> ステートからタイマーが回復できるようにします。
<b>udld</b>	単方向リンク検出 (UDLD) の <b>errdisable</b> ステートからタイマーが回復できるようにします。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**errdisable** 回復がイネーブルの場合、インターフェイスは自動的に **errdisable** ステートから回復し、デバイスによりインターフェイスのアップがリトライされます。

## 例

次に、リンクステート フラッピングからの **errdisable** 回復をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# errdisable recovery cause link-flap
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>errdisable detect cause</b>	errdisable (err-disabled) の検出をイネーブルにします。
<b>show interface status err-disabled</b>	インターフェイスの errdisable ステータスを表示します。

# errdisable recovery interval

インターフェイスを **errdisable** ステートから解除する回復時間の間隔を設定するには、**errdisable recovery interval** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**errdisable recovery interval** *time*

**no errdisable recovery interval**

## 構文の説明

*time* errdisable 回復時間間隔。有効な範囲は 30 ～ 65535 秒です。

## コマンド デフォルト

ディセーブル

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

errdisable 回復がイネーブルの場合、インターフェイスは自動的に **errdisable** ステートから回復し、デバイスによりインターフェイスのアップがリトライされます。

デバイスは 300 秒待機してからリトライします。

## 例

次に、errdisable 回復時間間隔を 100 秒でイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# errdisable recovery interval 100
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>errdisable recovery cause</b>	インターフェイスの <b>errdisable</b> 回復をイネーブルにします。
<b>show interface status err-disabled</b>	インターフェイスの <b>errdisable</b> ステートを表示します。

# erspan-id

Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) セッションのフロー ID を設定するには、**erspan-id** コマンドを使用します。フロー ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**erspan-id** *flow\_id*

## 構文の説明

*flow\_id*                      ERSPAN のフロー ID。指定できる範囲は 1 ～ 1023 です。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ERSPAN セッション コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ERSPAN セッションのフロー ID を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 1 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# erspan-id 100
switch(config-erspan-src)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ip dscp</b>	ERSPAN トラフィックのパケットの DSCP 値を設定します。
<b>ip ttl</b>	ERSPAN トラフィックの IP 存続可能時間 (TTL) 値を設定します。
<b>mtu</b>	SPAN パケットの最大伝送ユニット (MTU) サイズを設定します。
<b>vrf</b>	ERSPAN トラフィックの転送の VRF を設定します。
<b>monitor-session</b>	ポート間トラフィック分析のために、ERSPAN または SPAN セッションを設定するためのモニタ コンフィギュレーション モードを開始します。

# extension-key

拡張キーを vCenter Server に接続するために使用するようには **extension-key** コマンドを使用します。

## **extension-key** *extn-ID*

### 構文の説明

<i>extn-ID</i>	拡張 ID。この ID には最大で 80 文字の英数字を指定できます。
----------------	-------------------------------------

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

SVS 接続コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、vCenter Server の拡張キーを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# svs connection SVSConn
switch(config-svs-conn)# extension-key vckey
switch(config-svs-conn)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show svs connections</b>	SVS 接続の情報を表示します。
<b>svs connection</b>	SVS 接続をイネーブルにします。